

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 68

2021年5月発行

〒535-0021 大阪市旭区清水 3-22-24-101 Tel.06-6953-2665 fax06-6953-2655 E-mail houpu@r.river.sannet.ne.jp

子育て支援事業

「発達が気になるお子さんの子育て情報」発信

～ 大阪市旭区の地域密着情報 ～ 赤い羽根共同募金助成事業

3月末、旭区社会福祉協議会の助成金で、発達が気になるお子さんの保護者向けの情報発信を開始しました。保護者のニーズ調査を行い、どのようなことに困っているか（困ったか）、どのような情報が欲しいか（欲しかったか）を基に、相談先、支援や制度、年代別の情報、療育・リハビリ、手帳取得などの「子どもの発達が気になった」時に知りたい情報や、区内の幼稚園や保育所、児童関係事業所の情報を発信しました。

「子どもの発達が気になったら」の部分は、障害児の保護者にご協力をいただき、使用者目線で作成しました。この情報発信で、子どもの発達に不安を抱えている保護者たちが、一歩を踏み出したり、元気になったりしてくださればと思っています。今後、情報量を増やして、内容を充実させていきたいと思っています。2005年に子育てマップを発行した時のように、保護者が本当に必要としている情報を発信していきたいと思っています。

保護者のみなさま、情報をお寄せください。お待ちしております！ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

障害をもつ子ども、発達が気になる子どもの子育て
～ 大阪市旭区の地域密着情報 ～
— もくじ —

1. 子どもの発達が気になったら	2
(1) 相談できる場所	
(2) 利用できる支援や制度	
(3) 年代別のサポート情報	3
妊娠・出産・就園・就学	
(4) 療育・リハビリの利用	5
(5) 手帳の取得	6
(6) 医療費や保育費のサポート	7
(7) 情報を取得できる場所（リンク）	8
2. 参考資料（旭区東部地域福祉担当作成）	9
→ 障がい児福祉サービスの種類やサービス利用までの流れ・手帳の取得について	
3. 旭区の幼稚園・保育所情報（旭区内の幼稚園や保育所 https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/000509 * 保育内容については、各園にご確認ください。 発達に遅れのあるお子さんの保育所入所の申請については、 旭区発達障がいセンターにお問合せください。	
4. 旭区の児童関係事業所情報（障がい児の居場所の紹介）… 1 * 旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会（現製）作成	
5. 病院や診療所の紹介（クチャミ情報）	作成中
6. お店や美容室の紹介（クチャミ情報）	作成中
7. 子育てのヒント	作成中
* 先着保護者からのヒントやアドバイス	

発達が気になるお子さんの 子育て情報！

～ 大阪市旭区の地域密着情報 ～

サポートは？ 療育って？

就園、就学、どうしたら？

相談窓口や福祉サービスは？

見てみてください！



お問い合わせ

NPO法人 地域生活サポートネットほうぶ
こども相談ほうぶ 06-6953-2665

赤い羽根共同募金助成事業

2020年度事業報告

2020年度は、6月より児童福祉法に基づく障害児相談支援事業を開始し、児童福祉法に基づく障害児通所支援事業（放課後等デイサービス）、障害児者の自立に向けた支援事業、子育て支援事業を継続した。関係機関との連携に努めたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域住民と協働した活動やボランティアの協力による活動は縮小した。生涯学習講座等の企画・運営支援事業は休止し、まちづくりの推進に関する企画及び研究事業については、地域自立支援協議会での地域福祉計画についての意見交換にとどまり、地域活動協議会の活動休止に伴い事業を休止した。

(1) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

6月より事業を開始した。子どもの最善の利益と子どもと家族の生活を大切にし、子どもが将来、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者等の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、情報の提供を行い、関係機関と連携を取りながら支援を行った。

(2) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

定期的な支援計画の見直しとケース会議を継続し、それぞれの子どもの計画に基づいて支援を行った。感染症対策を行いながら、学習と遊びを丁寧に積み重ね、創作活動や公園遊びを多く行った。感染症拡大が少しおさまった時期には、大きな公園に遠足に出かけたり、お楽しみ会を開いたり、クッキングやお菓子作りを行ったりして、子どもたちがストレスを溜めないよう工夫して活動に取り組んだ。一時的な事業所移転をしたが、地域住民との交流が難しい時期であるため、地域清掃活動を行うことで近隣地域への啓発活動とした。また、子どもたちと一緒に避難訓練や災害についての勉強会を開いたり、災害時クッキングを行ったりして、防災の取り組みを行った。

当法人独自の「ワタシ×ミライ ワークショップ（こどもからはじめる個人将来計画）」は、感染症防止を考慮し形式を変えて開催することで、継続して関係機関との連携をとることができた。「こども ILP（自立生活プログラムこども版）」の実践は、感染症拡大の影響により、地域住民や学生ボランティアの協力を得ることが難しく、予定していたプログラムや地域交流イベントは実施できなかったが、土曜日活動において自立に向けた支援内容を意識的にを行い、子どもたちが得意なことや苦手なことにチャレンジする機会を創り、社会生活体験を広げることができた。

利用者の満足度調査を実施し、ホームページや法人会報に結果を掲載し、運営や支援内容の検討・改善を行った。外部研修がリモートになる中、常勤職員対象に7月から12月までの月一回、当法人会員を講師に応用行動分析の勉強会を開催した。感染症対策についての研修を行ったり、職員ミーティングやアルバイト職員の振り返りを日々行ったりして、施設内においても研修を実施した。支援内容の充実と職員の質の向上を図ることができた。

(3) 障害児者の自立に向けた支援事業

旭区地域自立支援協議会に参画し、地域の障害者福祉の推進を行った。地域自立支援協議会の本会、こども部会、相談部会の定例会に参加して、障害児者の地域生活を支援するための活動に取り組んだ。本会では防災の取り組みについての意見交換を行い、障害児者の災害

時の支援についての検討を始めている。こども部会では、教育と福祉の連携についての話し合いを始めた。また、「就学進学なんでも相談会」を区内 10 小学校と区役所で開催した。相談員として協力し、障害児の家族の悩みを共有したり、将来に向けた情報を提供したりして、保護者への支援を行うことができた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、障害児を対象としたキャンプや地域交流イベントは実施することはできなかったが、感染症拡大が少しおさまった時期に、自立支援協議会仕事部会の商店街での販売活動に参加してバザーを行った。感染症対策を考慮して、障害当事者が販売体験をすることはできなかったが、地域に対する啓発活動を行うことができた。

(4) 子育て支援事業

8 月に障害をもつ子どもの保護者向けセミナー「先輩の話を聞いてみよう～障害をもつ子どもの進路について～」を旭区在宅サービスセンターにて開催し、先輩当事者や保護者から体験談を聞く機会を提供した。参加者は、先輩の体験談を聞き、それぞれの疑問や悩みを伝えあったり、想いを聴きあったりして、充実した時間となった。

「こども相談ほうふ」では、障害をもつ子どもの保護者支援として、保護者と協働して、ニーズ調査を行い、「発達が気になるお子さんの子育て情報」を発信した。コロナ禍でつながりが希薄になる中、不特定多数の保護者に情報を発信し、保護者と協働することで保護者のエンパワメントを図ることができた。

「旭区子育て安心ネットワーク」の定例会（事務局：旭区役所）や、「あさひの輪」の定例会（事務局：旭区社会福祉協議会）の参加など、区内の子育て支援関係の定例会に参加し、区内の子育て関連施設と連携して子育て支援の充実に向けての取り組みをした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、旭区内の子育て支援イベント「子育てわいわい広場 in ASAHI」は中止となった。また、「清水地域子育てボランティアグループ」の定例会に参画し、地域に密着した子育て支援に取り組むことができた。大阪市の「ブックスタート」事業を 2 回開催し、乳児とその保護者が絵本と出会い、地域とつながる場を提供することができた。「ブックスタート」に参加された中の 2 組の母子が、後日、絵本を読みたいと訪問され、地域の居場所の一つとなることができた。



放課後等デイサービス「楽童ほうふ」報告

大阪府では医療機関のひっ迫状況が改善されないまま、変異株の感染が急拡大し、4月25日から3度目の緊急事態宣言が発令されました。前回の緊急事態宣言の解除後から再開していた土曜日活動のクッキングは再度中止し、公共交通機関を利用した外出活動も引き続き見合わせる方針を確認しました。大阪市内の小・中学校では、在宅学習と対面授業・給食を組み合わせた対応が実施され、各家庭と相談しながら、下校時の支援にも柔軟に対

応しています。在宅学習の課題や宿題について個に応じた学習支援を行うとともに、雨が降っていない日は近くの公園で遊ぶ時間をできるだけ多く確保しています。

子どもも大人も、大小さまざまなことに気を遣い、我慢を強いられる状況にあります。そのなかでも、子どもたちが主導となってさまざまな試みが始まっています。卒業を控えた高校3年生のメンバーが中心となって演劇プロジェクトを発足させ、脚本やキャスティングも自分たちで考え、3月末の卒業パーティー(後述)では無事、卒業公演を成功させました。新年度に入ってから、中学生メンバーの呼びかけで「手話サークル」「ダンスクラブ」などの自主活動が相次いで立ち上がりました。実際に自主活動を進めていくと、それぞれ好き嫌いも意見も異なるなかで、自分たちで話し合って納得できる一致点を見出していくのが難しい場面にも直面することでしょう。それでも、誰かに押し付けられた活動ではなく、自分たちが「やりたいこと」のために集まっているからこそ、もうひと踏ん張りして対話を重ねながら活動が続いていくことを期待したいです。スタッフとしても、出しゃばりすぎない程度に提案したり、話し合いの交通整理をしたりしながら、子どもたちの試行錯誤を見守っていきたいと思います。

4月からは、スタッフにも新しいメンバーを迎えました。学童保育の現場で長く働いてきた保育士です。創作遊びや集団遊びの引き出しをたくさん持っているのも、いろんなゲームや楽しい創作活動を提案してもらい、遊びの幅が広がっています。コロナ禍のなかで、昔ながらの遊びの多様性や、その普遍的な価値についても再発見する日々です。



公園遊びでは、子どもたちが生き生きとした表情を見せてくれます

手話サークル 活動中

グループワーク (2月~4月) 学



2021年2月6日(土) 参加者: 子ども 9名

2021年3月6日(土) 参加者: 子ども 10名

2021年4月3日(土) 参加者: 子ども 6名

グループワークは、「互いの考えや気持ちを表現し合い、聴き合う体験を学ぶ」ことを目的とした活動です。子ども向けヨガを参考にしたリラックス体操と、修復的対話の場づくりの手法であるトーキングサークルを組み合わせ、30分間程度の時間で実施しています。

2月からは、子どもたちが活動目的を行動に結びつけやすくなるよう、ルールを2つに絞り込み、「ぬいぐるみを持っている人が話をします」「(それ以外の人は)ぬいぐるみを持っている人をみましょう」という目標を提示しました。子どもと大人(スタッフ)の席配置にも工夫を試みました。

3月のグループワークは、高校卒業&ほうぶ卒業を控えたKさんを囲んで、「ワタシ×ミライ ワークショップ」特別版として実施しました。「Kさんってどんなひと?」「これからKさんがしたいこと・Kさんにしてほしいこと」というテーマで意見を出し合いました。

4月のグループワークは、小学校に入学して間もない新メンバーも交えて実施しました。はじめての活動内容に戸惑う様子も見られましたが、先輩たちが順番にぬいぐるみを手渡したり、絵カードを取って発表したりする様子を見て、全体の流れや雰囲気はつかんでくれたようです。

新年度を迎え、小学校低学年のメンバーが増えつつある中で、活動に参加するための前提条件を整える段階から、さまざまな工夫が求められます。引き続き、試行錯誤を重ねていきます。

広場で のびのび遊ぼう (1月末~4月) 遊



2021年1月30日(土) 参加者:子ども 7名

2021年2月13日(土) 参加者:子ども 11名

2021年4月24日(土) 参加者:子ども 12名

公共交通機関を利用した遠足を企画できない分、淀川河川敷や鶴見緑地公園など、徒歩で行ける範囲にある広場におでかけして、心身を解放できる機会をつくってきました。

1月30日には、午前中に画用紙で凧づくりをしてから、昼食後に淀川河川敷に行き、凧揚げをしました。風もほどよく吹いていて、凧がふわっと宙に浮かびました。

2月13日には、昼食後に鶴見緑地公園まで行きました。小春日和の陽気のもと、バドミントン、キャッチボール、ドッジビーなどで身体を動かしたり、公園内を散歩したり、木々の写真をスマホで撮影したり、木の根元を観察したり…と、思い思いに過ごすことができました。

4月24日は、再びの緊急事態宣言が発令される直前のタイミングでしたが、昼食を持って淀川河川敷まで行き、ピクニックをしました。昼食時の座り方も、飛沫感染防止を意識した配慮を講じました。自由時間には、虫取り網をもって駆け回ったり、川のほとりを散歩したりしました。また、全員で一緒に遊べるグループ活動として、鬼ごっこのアレンジゲーム「宇宙旅行」で、広い原っぱで思い切り走って身体を動かしました。その後はさらに近くの公園に移動して、アスレチックに登ったり、シロツメクサ摘みをしたり、充実した一日を過ごすことができました。



節分にちなんで鬼退治ゲーム 学 遊

2021年2月6日(土) 参加者:子ども 9名

節分の豆まきにちなんで、段ボールで作った鬼の顔に、新聞紙ボールを投げる「鬼退治ゲーム」をしました。鬼の顔には、目・鼻・口に穴を開けてあり、一人ずつ、制限時間内に何個、ボールを穴に入れられるか競いました。最後は、お片付けも兼ねて、みんなで一斉にすべての新聞紙ボールを鬼の顔の穴に入れました。子どもたちは大興奮でした。



どんぐりで遊ぼう 学 遊

2021年2月20日(土) 参加者:子ども 9名

2月13日の遠足(鶴見緑地)で、どんぐりをたくさん拾ったので、どんぐりを使った創作

活動をしました。折りたたみ式のちゃぶ台を斜めに置いた斜面に段ボールなどで障害物やトンネルをつくり、そこにどんぐりを転がす「どんぐりころころゲーム」を楽しんだり、どんぐりを造形素材として用いて丑年にちなんだオブジェ制作にも取り組みました。



ボランティア活動（地域清掃）

住 働

2021年2月27日（土） 参加者：子ども 7名

新拠点が完成するまでの間、間借りでお世話になっている近隣の方々のお役に立てることはないかと考え、地域ボランティア活動として、子どもたちとスタッフが一緒に、いくつかのグループに分かれて、ほうぶの周りの道や公園のゴミ拾いをしました。

最初は「えー、めんどくさい」と言っていた子どもも、いざゴミ拾いをはじめると、「ここにもゴミがある！」と、ゴミ探しゲームのように集中して取り組みました。途中、近隣の方が「ありがとう」と声をかけてくださる場面もありました。



卒業パーティーの看板づくり

学 遊

2021年3月13日（土） 参加者：子ども 9名

3月27日（土）の卒業パーティーに向けて、創作活動の一環でカラフルな看板づくりに取り組みました。花びらや木の枝をかたどった型紙でステンシルをしたり、好きなキャラクターの絵を描いたりしました。「卒業おめでとう」の筆は、味わいのある字を書く高校生メンバーが、平日放課後にあらかじめ書いてくれました。



卒業パーティー

学 遊

2021年3月27日（土） 14：00～16：00 参加者：子ども 10名

高校3年生メンバーを盛大に送る「卒業パーティー」を開催しました。卒業メンバーのための希望で、有志を募って準備してきた創作劇を「卒業公演」としてお披露目しました。「卒業公演」を無事に終えたあとは、武庫川女子大学の学生ボランティア主催のプチ音楽会、卒業メンバーへの花束贈呈、そして卒業メンバーへ贈る応援ソングとしてWANIMAの「ともに」をピアノ伴奏にあわせて歌いました。最後に、メンバー全員で記念撮影をしました。



防災クッキング&防災クイズ

食

住

学

2021年4月10日(土) 参加者：子ども 6名

もともと、旭消防署で救命講習を受講する予定でしたが、新型コロナまん延防止により延期となりました。急遽、代替の防災学習プログラムを企画し、「災害でライフラインが使えなくなったら…？」という状況を想定し、カセットコンロと缶詰めを活用する防災クッキングを行いました。調理工程や盛り付けの段階でも、洗い物が少なくなるよう、新聞紙の上で皮むきをしたり、お皿にラップを敷いたりといった工夫をしました。また、ガス・電気が使えなくても、栄養たっぷりの温かい料理を作れることを学びました。



昼食後は、東京消防庁がホームページ上で公開している子ども向け防災クイズをみんなで解いてみました。2択クイズ形式ということもあって取り組みやすく、楽しみながらさまざまな場面での危機回避の方法を学ぶことができました。

廃材工作で忍者に変身！

学

遊

2021年4月17日(土) 参加者：子ども 7名

牛乳パックやトイレットペーパーのロール芯、新聞紙など、そのまま捨てられがちな素材を用いて創作活動をしました。開いた牛乳パックに切り込みを入れ、折り目をつけて丸めると、立体的な手裏剣の完成！ フリスビーのようによく飛びます。新聞紙で忍者頭巾を作ると、忍者コスプレも楽しめます。ロール芯に色紙を巻いて、マジックで顔を描いていくと、忍者まどができあがりました。最後は、ロール芯の忍者まどをテーブルに並べて、手裏剣でいくつ倒せるか、忍者まど当てゲームで白熱しました。



● 地域活動報告 ●

- 2月17日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談部会定例会 (旭区役所)
- 2月24日(水) 旭区子育て安心ネットワーク会議 (旭区役所)
- 3月5日(金) あさひの輪定例会 (旭区社会福祉協議会)
- 3月9日(火) 旭区地域自立支援協議会 こども部会 (旭区役所)
- 3月17日(水) 旭区地域自立支援協議会定例会 (旭区役所)
- 3月22日(月) 清水子育てボランティアグループ」例会 (清水小学校)
- 4月21日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談部会定例会 (旭区役所)

楽童ほうぷでは、高校生が卒業していき、小学生が増えてにぎやかな日々です。子どもが密にならないように遊ぶことは難しいのですが、感染症対策をし、工夫しながら活動しています。時々、卒業生が顔を出してくれます。彼らが新しい居場所を見つけるまで、彼らの居場所であり続けたいと思います。

辛い時期が続きます。みなさま、どのようにお過ごしでしょうか？辛いことや心配なこと、一人で抱え込まないで、いつでもお電話やメールやお便りをください。くれぐれもお身体に気をつけてお過ごしください。

